

橈骨骨端線離開により保護された エゾシカの野生復帰について

○ 伊藤 真輝¹⁾, 山本 秀明¹⁾, 神谷 知未²⁾
(¹⁾札幌市円山動物園, ²⁾札幌市経済局農業支援センター)

平成20年度 エゾシカ保護・収容状況

収容年月日	性別	体 重	収容時状態	処置・顛末
平成20年7月8日	メス	40kg	左尺骨遠位端骨折及び 橈骨遠位骨端線離開	麻酔により捕獲 創外固定による整復 放野
平成20年8月23日	メス	推定80kg	両後肢に軽度出血	麻酔により捕獲 放野
平成20年8月23日	オス	推定80kg	左右前肢、左後肢開放 骨折	麻酔捕獲 安楽死
平成20年9月4日	メス	48kg	左大腿骨骨折	無麻酔捕獲 安楽死
平成20年10月15日	オス	未測定	不明	死体収容
平成20年10月20日	オス	80kg	四肢骨折、内臓脱出	死体収容
平成20年10月30日	オス	116kg	不明	死体収容
平成21年2月6日	オス	未測定	右股関節脱臼	無麻酔捕獲 安楽死

これは昨年度のエゾシカの収容状況ですが、捕獲時に生存していた5件のうち3件は開放性の骨折のため安楽死しており、野生復帰したのは2件だけです。そのうち、昨年7月8日に札幌市北区で交通事故により保護したエゾシカに対し、創外固定器具を用いた骨折治療を実施し、野生復帰をしましたので、この事例について報告をします。

保護時の状況

保護日 : 平成20年7月8日
保護場所 : 札幌市北区丘珠の長葱畑
推定体重 : 30kg (実測:40kg)
性別・年齢: メス 推定1歳
発見時の状態 : 3肢で起立し、左前肢に負重しない。
重度の跛行が見られ、近づいてもあまり逃げようとしていない

麻酔

↓
ケタミン 60mg (2mg/kg) 実質1.5mg/kg
塩酸メドミジン 1300 μ g (43 μ g/kg) 実質32.5 μ g/kg

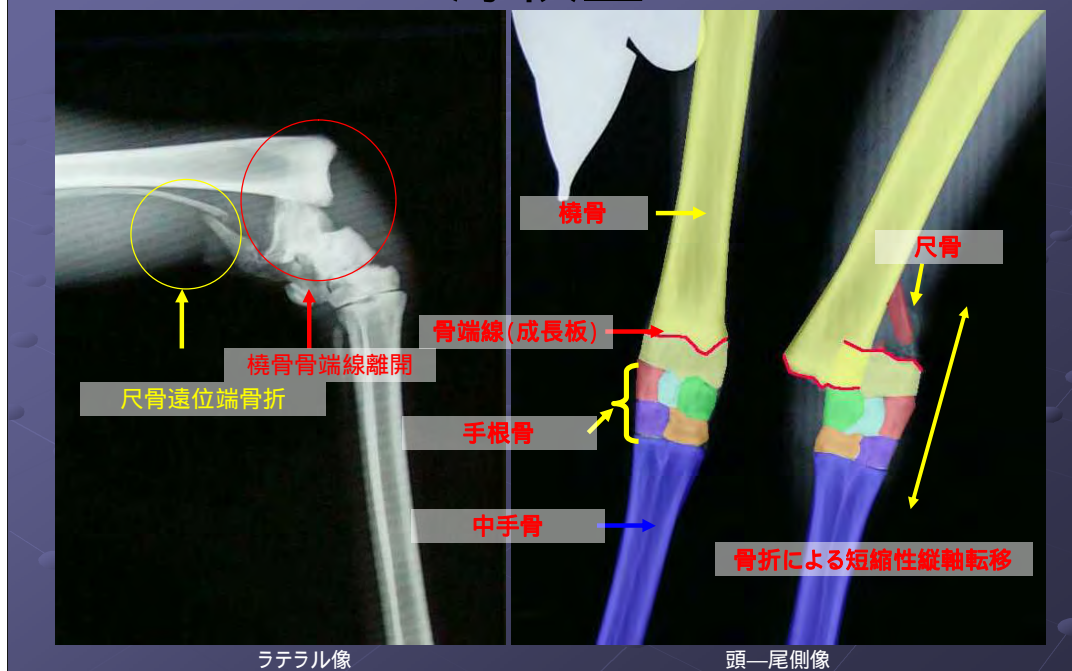
吹き矢で麻酔を実施。10分後、不動化し、園内動物病院に搬送

収容時の状況です。

平成20年の7月8日、推定30kgの若いメス鹿で、札幌市北区丘珠の長ネギ畑で交通事故により左前脚を骨折して衰弱し、動けない状態で発見されました。無麻酔の捕獲はできなかったためケタミンとメドミジンによる混合麻酔を吹き矢で投与し円山動物園園内動物病院に搬送しました。

X線検査

(平成20年7月8日撮影)



X線検査の画像です。

左前足の尺骨の骨折ととう骨の骨折が確認できます。

正面からの画像ですが 黄色い部分がとう骨ですが、とう骨が赤い線の部分で骨折しています。この線は骨端線と呼ばれる部分で、若い動物では軟骨でできており、細胞分裂で骨が成長していく部分です。成長が止まると、この成長板が軟骨から骨化し、X線では写らなくなりますが、本症例ではまだ軟骨の骨端線が残っています。このような骨端線での骨折を骨端線離開と呼びます。

診 断 ・ 治 療

X線検査

- ・左前肢尺骨遠位端の完全骨折
- ・橈骨骨端線離開

(保護当日は、骨端線の骨折を前腕手根関節脱臼と誤って診断)

治療

緊急の患者のため固定器具が未準備

応急処置として観血的整復とギブス固定

抗生物質 ペニシリンG(15,000単位/kg) i.m.

ステロイド性抗炎症剤 プレドニゾン(0.2mg/kg) s.c.

X線診断では当初前腕骨の尺骨骨折ととう骨骨端線離開が確認できましたが、検査当日は骨端線の骨折をトウ骨と手根骨の骨折と誤って診断しておりました。エゾシカの保護が緊急だったため骨折固定用の手術器具の準備をしておらず応急措置として骨折部の皮膚を数センチ切開し、骨折部分を見ながら整復を行い、ギブス包帯による外固定を実施しました。また、炎症防止のためのステロイド剤と感染防止の抗生物質をそれぞれ投薬しています。